

事業所名

エミオン西町（児童発達支援）

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

1 月

16 日

法人（事業所）理念		療育・余暇時間や仲間との交流を通じて1人1人のお子さんが「楽しい」という環境を目指し、保護者や利用者と共に成長していく。											
支援方針		「みる・きく・さわる」を楽しみながら表現の幅を広げていき達成感・充実感を育む。決められた物を消化するのではなく、「やってみたい」という意思を相談しながら決定していき、出来た作品をみながら振り返り・改善点など自分の想いに気付き、あらゆる物にたいして積極的になる力を育てていく。											
営業時間		9	時	30	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし	主に札幌市 (中央区・東区・西区・手稲区など)
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・体調の変化の報告（感覚の鈍さから気付きにくいお子さまや、楽しいから言わないなど）→ お迎え時に声かけや確認をし感染予防対策も含めての支援											
	運動・感覚	・筆や色えんぴつを用いた絵画表現活動を通じての微細運動に取り組み、集中力や手先動作の向上。 ・図形の分解を予想しながら展開図を作り空間的な把握をする力を養う。 ・見本の作品を真似したり自分のアレンジをいれ表現力を豊かにしていく（支援者や周囲の大人が受け入れながら考えを肯定していき自己肯定感を高めていく）											
	認知・行動	・利用児やスタッフの顔と名前を認知するためお互いに言葉を発しながら一致触れる機会を増やしていく。 ・自分の考えや他者の考え（利用児とスタッフが工作物に対して意見を交換しているときなど）が触れ合う際に、自分の考えのみならず相手の考えを柔軟に受け入れてみたり、否定をしすぎず対応が出来るようになるように、相手の良いところを伝えてきながら自然に他の子にも出来るようになる。											
	言語 コミュニケーション	・相手と自分の力の差（年齢が違う、得意や苦手なことが違うなど）に固執するのではなく、素敵などところを見つけながら言葉を選ぶ（支援者、大人の見本による理解への結びつけ） ・面白いことや、悲しいことなど心理から感じる想いと言葉を発言していく（頼っても大丈夫という安心感を得ていく）											
	人間関係 社会性	・その場にふさわしくない、叶えることが不可能な場合の折り合い（気持ちの整理）をつける練習（取り組んで見たい工作を利用児から提案→材料がないため直ぐには出来ない→理由を短く正確に伝えて理解を促す→納得できないときはお互いの話を聞き、理解に結びつける） ・トラブルや意見のぶつかりが生じた際に、その場の状況で決めつけるのではなく双方の意見を聞き、その姿を見せながら安心できる環境を形成して模倣できるようになる。											
家族支援		・希望に応じて面談や電話などのツールを用いて面談を行い悩みや、今後についての課題解決を行います。				移行支援		・必要に応じて就学先や園と会議を開き連携を図ります。					
地域支援・地域連携		・地域部会や研修などに参加し意見交換を行います。 ・地域で利用時も活動できる行事があれば参加を検討し伺います。				職員の質の向上		・採用時研修、継続研修、虐待防止研修、身体拘束等適正化研修、感染予防研修、事業継続化研修、パワーハラスメント研修など、その他に法令外で必要と感じる研修に取組んでいきスキルアップを目指します。 (研修予定を年度予定表と一緒に計画しています)					
主な行事等		・調理レクリエーション ・外出レクリエーション ・夏祭り											

## エミオン西町 支援プログラム（可視化）

### 支援方針

→利用児の想いや願いを職員と相談しながら実行する機会を多く設定し「何が良いか」を考えて  
 実行→評価・ふり返りのサイクルを行い自己成長に繋げていく

